

Reclaimed Community



Reclaimed Community 『防災・減災のための津島型住宅モデル』

自然災害に対する防災・減災は、個人や住宅のような単体の小さなレベルで対応するには限界があるばかりか効果的ではないと考え、一方で、昔ながらのつちかた大きなレベルで誰かを助けるのも有効であると考えました。

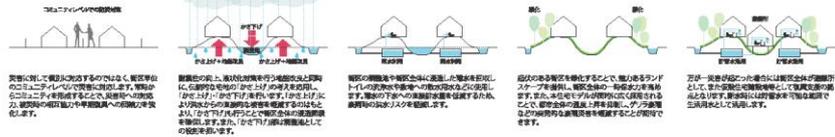
本計画では、街区単位でのコミュニティを基本とした、防災・減災を行う住宅モデル、もしくは復興モデルを提案します。効果的な地域でも誰かのように水と共に生き、水を積極的に利用するような柔軟な住宅モデル。

伝統的なかさ上げ生活を採用し、かさ上げを行いつつ、同時に「かさ下げ」を行うことで、緊急時が最も危険な状況に置かれたランドスケープを形成しながら、災害化の際に街区を形成します。津島神社が所在のシンボルよりどころであるように、ここで復興する住宅(街区)モデルが形成する鎮守の縁のような街区展開は、新たな市長のよりどころとなります。



配置図
本住宅(街区)モデルの敷地は、津島市のシンボルである津島神社の境内に位置する一帯をモデルケースとして採用しています。

- ①コミュニティの協力による防災
- ②「かさ上げ」/「かさ下げ」による減災
- ③雨水利用による減災
- ④緑化による減災
- ⑤復興拠点としての復興支援





本提案は街区単位のコミュニティを中心としたハード・ソフト両面での防災・減災提案です。

街区全体が起伏ある緑豊かなランドスケープを形成しつつ、様々なウォーターマネジメントシステムを導入することで水害（災害）対策を行います。また、街区全体が防災への意識を高め、将来に渡りその意識を継承していきます。

これらソフト・ハード両面での対応により街区／都市全体が災害に強い持続的なコミュニティへと成長していきます。（鬼頭知巳）

【審査委員講評】

難波和彦審査委員長

津島神社の南側敷地を選び、嵩上げ上げた敷地をパイルコラムによって補強した鉄骨造2階建ての箱型住宅を分散配置し、周囲を緑化した案である。美しいシークエンスを持った提案だが、盛土によって散在的に生じる池、建物相互の隔離、内外空間の不足など、解決すべき問題点が多いように思われる。

朝岡市郎審査委員

街区単位のコミュニティでの防災・減災、かさ上げ、かさ下げの組み合わせによる被害の減少が提案されている。雨水利用、緑化による魅力あるランドスケープの提供と都市全体の温度上昇の抑制によるゲリラ豪雨の抑制など自然との共生が提案されている。

生田京子審査委員

一区画を一体的に開発・使用する案で、平坦な土地に起伏を設けて、池と嵩上げ住宅による風景が出現するという考え方です。パースでは自然の森を思わせる豊かな風景が描かれて、新たな可能性を感じさせられます。実現に向けた更なる詳細な検討が期待されました。

川崎浩司審査委員

自分の敷地内に造成した溜め池の土砂を利用し、地盤の嵩上げを行い、水防災への強化を図っている。また、緑にあふれた空間や雨水の利用施設を設けることで、自然に優しい住宅街の形成をもたらしている。

清水裕之審査委員

タイトルを英語にする必要があったのだろうか。また、外国人の姿を描く必要があったのだろうか。そうしたシンプルなところから違和感が始まっている。土地を掘り取って一部を上げ、一部を池として風景を作り出し、それが防災・減災にもかなっているという提案を、二次審査において素直にブラッシュアップすればよかったのだが、残念ながら中途半端に終わっている。団地として、敷地の共有をどうするのかという具体的な制度の提案も欲しかった。

日比一昭審査委員

防災・減災の対応を街区単位で、コミュニティを根本に提案された点は興味深い。ランドスケープとしての起伏や緑は良いと思うが、市街化区域にしては密度が低いこと、できあがった「ため池」がエリア全体の浸水に有効かとの疑問も高く、実現性が低いと感じた。